

# 平成27年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 結果のポイント

正答率	中学校：国語	
	国語A	国語B
国東市	76.9	64.7
大分県	75.9	65.6
全国	75.8	65.8

・全国平均との比較では、国語Aは+1.1ポイント（昨年度：+0.6ポイント）で全国平均を上回ったが、国語Bは-1.1ポイント（昨年度：-0.6ポイント）となり、全国平均に届いていない。

・当該学年が小学校第6学年の時の全国平均との差を比較すると、国語Aでは+4.0ポイント、国語Bでは+4.1ポイントとなり伸びが見られる。

・領域別では、国語Aにおいては全ての領域において全国平均を上回っている。しかし、国語Bにおいては、全ての領域において全国平均を下回る結果となっている。

分類		国東市	大分県	全国
国語A	話すこと・聞くこと	76.3	78.4	79.7
	書くこと	74.7	73.4	73.6
	読むこと	87.8	86.8	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	73.2	72.9
国語B	話すこと・聞くこと	71.9	71.1	72.2
	書くこと	35.9	35.7	36.7
	読むこと	61.2	62.8	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### A問題

#### (1) 話すこと・聞くこと

##### ①出題のねらい 《A問題 1 二》

聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことができるかどうかをみる。

##### ②解答状況

##### 1 二

生徒数の割合 (%)

解答類型	国東市	全国
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。		
① 「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に適切に直して書いている		
② 「この企画が」と「は、彼のさじ加減一つで決まる。」に適切に続くように、十字以内で書いている。		
・条件①②を満たして解答しているもの	61.0	65.0
・条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.4	0.8
・条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	23.7	14.1
・上記以外の解答	8.1	8.0
・無回答	6.8	12.0

正答率は61.0%であり、全国平均正答率65.0%を4ポイント以上下回っている。聞き手にとってわかりやすい言葉に直して話すことに課題がある。

##### ③指導の改善事項

スピーチなどの活動を行う際には、話の速度や音量、言葉の調子や間の取り方などについて、これまで学習してきたことを振り返るとともに、聞き手にとって分かりやすい言葉を選択して話すことが大切である。聞いただけでは意味がわかりにくい言葉や日常生活で使うことが少ない言葉などについては、聞き手の反応

を踏まえてわかりやすい言葉に言い換えたり、説明を加えたりするように指導する必要がある。その際、言い換えた言葉が文脈に沿った正しい表現になっているかなどを確かめさせることも大切である。

①出題のねらい 《A問題 8 二》

必要に応じて質問しながら聞き取ることができるかどうかをみる。

②解答状況

解答類型	生徒数の割合 (%)	
	国東市	全国
・ 1 と解答しているもの	67.8	76.1
・ 2 と解答しているもの	22.5	15.4
・ 3 と解答しているもの	3.4	3.7
・ 4 と解答しているもの	5.5	4.1
・ 上記以外の解答	0.0	0.0
・ 無回答	0.8	0.7

正答率は67.8%であり、全国平均正答率76.1%を8ポイント以上下回っている。相手の発言を受けて、具体的な話を聞き出すための質問がどのようなものかを理解できていないものだと考えられる。

③指導の改善事項

質問をしながら話を聞く際には、相手の話の内容を踏まえ、事前に用意した質問だけでなく、より具体的な答えや話などを引き出すための新たな質問をすることが大切である。また、話の途中や話が終わった時点で質問するなど、適切な機会を捉えて質問することも重要である。例えば、テーマを設けて相互にインタビューし合い、話し手と聞き手のやり取りを振り返って評価し合うなどの学習活動も考えられる。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①出題のねらい 《A問題 9 二 1》

文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。

②解答状況

解答類型	生徒数の割合 (%)	
	国東市	全国
・ 「しょうさい」と解答しているもの	72.0	78.2
・ 「しょうさい」のうち「しょう」だけ正しく解答しているもの	0.0	0.4
・ 「しょうさい」のうち「さい」だけ正しく解答しているもの	20.3	11.8
・ 上記以外の解答	5.9	4.5
・ 無回答	1.7	5.1

正答率は72.0%であり、全国平均正答率78.2%を6ポイント以上下回っている。「さい」だけ正しく解答している誤答類型が多い。

③指導の改善事項

漢字を読むことの指導においては、文脈の中でどのような意味で用いられているかを理解しながら読むように指導することが大切である。例えば、辞書を活用して、漢字一字一字の音訓を確かめるとともに、その漢字が用いられたいろいろな語句を、実際の文章の中で使う学習が有効である。

①出題のねらい 《A問題 9 三 イ》

語句の意味を正しく理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。

②解答状況

9 三 イ	解 答 類 型	生徒数の割合 (%)	
		国東市	全国
・ 1 と解答しているもの		31.8	28.3
・ 2 と解答しているもの		9.7	11.4
・ 3 と解答しているもの		5.9	3.9
・ 4 と解答しているもの		<b>52.5</b>	55.5
・ 上記以外の解答		0.0	0.0
・ 無回答		0.0	0.9

正答率は52.5%であり、全国平均正答率55.5%を3ポイント下回っている。「口火を切る」という慣用語の意味が理解できていないものと考えられる。

③指導の改善事項

語句の意味について理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈に即して意味を捉えるように指導することが大切である。特に、日常生活で使うことの少ない語句について指導をする際には、実際に使われている場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習活動が有効である。また、誤った意味で使われやすい言葉や、使い分けが紛らわしい言葉を指導する際には、語句の意味や用法を具体的な場面と合わせながら学習することが大切である。さらに読書指導と関連付けて、機会を捉えて指導することも効果的である。

①出題のねらい 《A問題 9 七 1》

漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像することができるかどうかをみる。

②解答状況

9 七 1	解 答 類 型	生徒数の割合 (%)	
		国東市	全国
・ ア と解答しているもの		2.1	2.9
・ イ と解答しているもの		5.5	5.5
・ ウ と解答しているもの		<b>72.0</b>	75.7
・ エ と解答しているもの		18.6	14.5
・ 上記以外の解答		0.0	0.0
・ 無回答		1.7	1.4

正答率は72.0%であり、全国平均正答率75.7%を5ポイント以上下回っている。エ と解答しているものが18.6%である。これは【漫画の一部】と【古典の文章の一部】とを対応させて、かぐや姫と翁の会話の内容を理解することができなかつたものものと考えられる。

③指導の改善事項

古典の学習の際には、古典への興味・関心を深めることができるように指導することが大切である。その際、漫画や絵本、映像メディアを活用するなど、様々な指導の工夫が考えられる。例えば、漫画と絵本と古典の文章とを対応させて内容を大まかに捉えさせるなどの学習活動が考えられる。

## B問題

### (1) 話すこと・聞くこと

#### ①出題のねらい 《B問題 1 一》

状況に応じて、資料を活用して話すことができるかどうかをみる。

#### ②解答状況

##### 1 一

解 答 類 型	生徒数の割合 (%)	
	国東市	全国
・ 2, 3 と解答しているもの	69.9	73.2
・ 上記以外の解答	30.1	26.6
・ 無回答	0.0	0.2

正答率は69.9%であり、全国平均正答率73.2%を3ポイント以上下回っている。上記以外の解答が30.1%である。これは「その他の情報」の欄に書かれている情報が発表する内容をより詳しくした情報であり、補助的に活用できるものであることを理解できていないものと考えられる。

#### ③指導の改善事項

スピーチやプレゼンテーションをする際には、聞き手の反応や時間的な余裕に応じて話を追加したり変更したりする必要がある。その際、中心となる情報に加えて、それを補うために適宜使用する情報を資料として準備しておくことが大切である。

### (2) 読むこと

#### ①出題のねらい 《B問題 2 二》

文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えることができるかどうかをみる。

#### ②解答状況

##### 2 二

解 答 類 型	生徒数の割合 (%)	
	国東市	全国
・ 1 と解答しているもの	12.7	11.2
・ 2 と解答しているもの	10.2	9.2
・ 3 と解答しているもの	64.0	67.8
・ 4 と解答しているもの	13.3	11.3
・ 上記以外の解答	0.0	0.1
・ 無回答	0.8	0.3

正答率は64.0%であり、全国平均正答率67.8%を3ポイント以上下回っている。文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を的確に捉えることに課題があると考えられる。

#### ③指導の改善事項

文章の要旨を捉える際には、論の展開の中心となる部分と、それを支える例示や引用などの付加的な部分とを読み分けて内容を理解する必要がある。例えば、取り上げられている例示についてノートに整理するなどの学習活動が考えられる。

### (2) 読むこと・書くこと

#### ①出題のねらい 《B問題 2 三》

複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。

## ②解答状況

### 2 三

生徒数の割合 (%)

解 答 類 型	生徒数の割合 (%)	
	国東市	全国
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【A ウェブページの文章】、【B 日本の人口推移を表したグラフ】、【C 雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選んで、その記号を塗り潰している。 ② 選んだ二つの資料の内容を適切に取り上げて書いている。 ③ 2020年の日本がどのような社会になっているかを予想して具体的に書いている。 ④ 社会にどのように関わっていきたいかを具体的に書いている。 ⑤ 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書いている。		
・条件①②③④⑤を満たして解答しているもの	16.9	23.0
・条件①②③④を満たし、条件⑤を満たさないで解答しているもの	0.0	0.2
・条件①②③⑤を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	51.7	44.7
・条件①②④⑤を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	0.1
・条件①③④⑤を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.7	2.3
・上記以外の解答	26.7	26.1
・無回答	3.0	3.7

正答率は16.9%であり、全国平均正答率23.0%を6ポイント以上下回っている。文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると考えられる。

### ③指導の改善事項

多様な情報に触れながら問題意識をもったり、新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えることが重要である。その際、それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにすることが大切である。

また自分の考えを深めたり広げたりするためには、学校図書館やインターネットなどを利用し、主体的に情報を探すことも必要である。多様な情報を関連付けて読むことの指導に当たっては、新聞なども有効な教材となる。

## 3 指導改善のポイント（全体を通して）

### (1) 話すこと・聞くこと

相手や目的、状況に応じて分かりやすく話す力を身に付けるために、第1学年では相手に分かりやすい語句を選択することや言葉遣いなどの知識を生かすこと、第2学年では資料や機器などを効果的に活用すること、第3学年では敬語を適切に使うことなどについて指導するとともに、これまで学習してきたことを振り返りながら学習するように指導する必要がある。その際、聞いただけでは意味が分かりにくい言葉や日常生活で使うことが少ない言葉などについて、準備段階だけではなく、実際に話をする段階でも指導することが大切である。

### (2) 読むこと

多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりする力を身に付けるために、複数の本や資料から得た情報について、その真偽や適否を見極めるとともに、書かれている内容を自分と結び付けて考えるよう指導する必要がある。また、学校図書館やインターネットなどを利用し、目的や意図に応じて主体的に情報を収集する学習活動を取り入れることも大切である。このような学習の積み重ねにより、幅広く読書を行うことの意味を一人一人が実感できるように指導する必要がある。

### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、各領域の指導の中で、辞書等を使ってなじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設ける必要がある。また、文脈に即した適切な言葉や、目的に沿った効果的な言葉について検討する学習も重要である。

#### 【参考・引用】

平成27年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）